

3. [医療と保健の融合による健康づくり拠点の整備について]

大東町会場

Q10：保健と医療の融合施設は平成26年度末までにつくるとあるが、予算・費用のことがない。どういう形で費用回収するのか。医師が常駐するとなっているが、そういう医師がいる目安があるのか。市立病院の医師も非常に不足している中で、別に施設作って医師をおくのがいいことなのか。

A：医療と保健の融合施設の整備費用は、7～9億円程度としている。温水にする方法を検討中のため、2億円の幅を持たせている。費用については、建設費部分は補助事業や起債等があるが、問題はランニングコストで、年間5万人程度の利用と考えているが使用料だけでは賄えない。足りない部分は一般会計からの補充となる。現段階では年間4千万円程度と試算している。医師の配置は、当初はなかなかできないが、整備をしながら、健診等も含め指導していただける方が必要。市立病院は病院で努力しているので、市立病院とは別にお願いしなければならないと考えている。(健康福祉部長)

Q11：プールは障がい者が利用できるか。自分ですべてができる方が対象になっている気がする。インストラクターをつけた利用ができないか。障がい者はなかなかプールに行けないので考えてほしい。

A：検討委員会で検討中だが障がい者が使えないといけない。車いすで使えるプールを目指す。(健康福祉部長)

A：市立病院の医師も不足しており、無理のない形でお願いできないか相談している。脳梗塞などの手術の後、回復されても家での運動が難しい方が通所・通院を兼ねてリハビリを受けられる状況を想定している。そのため医師・理学療法士が必要で、治療・リハビリ部分等について、病院、医師会代表との協議や検討委員会を踏まえて、専門家の見解を伺いながら定めていきたい。(健康福祉部次長)

Q12：長野県で医療費が4万円減ったというが、長野県では温泉を利用して健康になっている。9億円かけてそんな施設を作らなくても、海潮温泉には35度の使われていない温泉がある。9億円使って毎年4千万円の赤字が出て、市民が負担しなければならない。余っている温泉の湯を利用すれば、長野のように健康になるのではないか。国道54号沿いにつくったら人が来るか。市民の健康維持のためなら海潮温泉で結構だ。

A：水道水を使おうと思っている。プールについては、大東町には小・中学校にプールがあるが、加茂ではB&Gのプールを子どもたちが利用しているが、老朽化し使えない状態になる。(健康福祉部長)

再質問：健康のためということではないのか。子どものためなら、小中学校にプールをつくれればいい。加茂へ健康のためにつくると言った。それなら海潮温泉のお湯を使ってつくれればいいのではないか。

A：子どもだけでなく、市民が年間使えるプールにしたい。現在月に4千人程度利用があり、(利用者)年間5万人と試算した。B&Gで指導してもらえ、支援もあるということで、今の場所で子どもたちと市民の皆さんに使っていただく考えだ。(健康福祉部長)

A：加茂の施設については、医療と保健の融合による健康づくり拠点事業として9月頃から議会へ話をしたが、説明が不十分で議員の皆さんからの多くの一般質問を受けた。医療と保健の理念が分かりにくいことから、説明を変えている。B&Gの補助を受けている加茂海洋センターのプールが24年近くたって老朽化してきた。7月～9月しか使えない。改築するのであれば温水で、通年で使えるものが雲南市にも1つあっていい、水中ウォークができ、ジャグジーなど必要最小限のものをつくらうと考えた。将来的にはリハビリ機能も付加して、きちんとしたソフトを整備していきたい。(副市長)

Q13：プールで使用する年間の灯油代はいくらか。健康福祉部と教育委員会で管理し責任を持たれるのか。浜田市に木質バイオの会社があるが、雲南市に誘致するのか。灯油でやる考えではないのか。

A：水をお湯にする方法は、灯油ボイラーで加熱する方法、木質チップを使う方法、地中熱を使う方法の3つを検討している。木質チップが今後のためには良いが、方法も含め検討委員会で検討していただく予定にしている。

灯油は年間19百万円、木質チップは年間11百万円、地中熱利用は初期投資が2億円かかる。(健康福祉部長)

A：責任の所在については、キラキラ雲南が管理しているので、一般の方の利用はキラキラ雲南が責任を持つ。学校の授業、教育課程で使用する時は、教育委員会・学校が責任を持つ。各学校のプールは、限られたシーズンしか使えない。温水により1年中部活動やスポーツ少年団の利用や社会体育としては使うときは、教育委員会が最終的に責任を持つ。管理上の責任は、管理していくところにある。(教育長)

再質問：それくらい経費がかかるなら、海潮温泉の湯を使えばいい。

国からお金が出ると言われるが、これもすべて税金だ。各市町村皆がそうしているから日本は赤字になるのではないかと。よそからもらえるものはタダだと思っているのではないかと。

A：なぜ加茂かということ、B&Gの実績とソフト面で今までの積み上げがある。熱源だけだと温泉を使った方が安い、今想定している規模と同じものを海潮に建てると12～14億円かかる。かもてらすなど既存の施設を活用し経費を抑えられる。都市公園整備事業の2分の1の補助が使える。過疎債を使えば市の持ち出し分は1億5千万円以内である。海潮では全て一般財源となる。B&Gが年間3千万円を修繕費として予算化しているので、何かあったらそれが使える。(健康福祉部長)

Q14：温浴施設について、財政非常事態宣言が出されているこの時期に、何故7億～9億円かけてつくらねばいけないのか。医療関係の費用を抑えるというなら、検診の施策を充実させる方が効果がある。施設はそこへ行く人にしか効果が出ない。独自の検診項目を増やすとか、あらゆる検診を通年実施するとか、人間ドック・脳ドックの個人負担金を抑える方が医療費の抑制ができる。

A：検診は重要と考え、土日に受けられる検診や健康診断の制度も始めている。施設ばかりでなく、検診にも力を入れていく。(健康福祉部長)